

CAMPUS HEALTH

2015.5

52 (2)

特集：障がいのある学生へのサポート
論文集・協会彙報



Japan University Health Association

CAMPUS HEALTH 52 (2)

特集・論文集・協会彙報

公益社団法人 全国大学保健管理協会



目 次

巻頭言

コミュニケーションとは……………	米 山 啓一郎 ……	1
------------------	------------	---

特集 《障がいのある学生へのサポート》

ASDの原因論－分子遺伝学的研究を中心に－	桑 原 齊 ……	3
発達障害の概念－DSM-5診断と大学生活で生じる問題の理解－	渡 邊 慶一郎 ……	9
高等教育における障害のある大学生の支援－その全体像	佐野(藤田)真理子ほか ……	15
高等教育機関での発達障害学生支援における課題	高 橋 知 音 ……	21
発達障害学生の大学受験と移行支援をめぐって	馬 淵 麻由子ほか ……	27
発達障害を持つ若者の内面の苦悩と社会適応問題	田 山 淳 ……	34
発達障がいのある学生への包括的支援のあり方	西 村 優紀美 ……	40
発達障害を持つ学生の得意な面を活かした積極的支援のあり方	須 賀 英 道 ……	46
発達障害等の悩みを持つ学生の支援体制－佐賀大学におけるキャンパス・ソーシャルワーカーについて－	佐 藤 武ほか ……	52
大阪大学における発達障害学生支援の現状と課題		
－就労支援において学内外の連携が有用であった1事例を通しての考察－	望 月 直 人ほか ……	58

一般投稿論文

学生の一般定期健康診断と特別健康診断の同時実施を試みて－健康支援システムの有用性について－	吉 田 智 子ほか ……	65
新入大学生のアルコール体質検査とアンケートによる飲酒意識について		
－クラブ仲間との飲酒行動の特徴とその危険性について－	古 屋 肇 子ほか ……	71
定期健康診断時に行った個別禁煙教育の効果、及び、喫煙と学業成績との関係	笹 原 妃佐子ほか ……	77
大学保健管理施設による食育プログラムの開発とその効果	足 立 由 美ほか ……	83
大分大学学生の喫煙に関する実態調査と今後の課題	工 藤 欣 邦ほか ……	89
判断基準別にみた麻疹、風疹抗体陽性者の割合の経年推移－医療系学部における課題－	小 野 真 一ほか ……	95
医学部生における麻疹、風疹、ムンプス、水痘に対する感染予防の新基準について	和 田 義 之ほか ……	101
カウンセリング経験の有無が自尊心・被援助志向性・ストレス反応との関係に及ぼす影響の検討		
－入学直前のネガティブライフイベントとの関連－	高 岸 幸 弘 ……	107

短期留学プログラムを完遂できなかった学生の事例研究	川 岸 久 也ほか	…… 113
K10とUPIの関連の検討－より簡便なスクリーニングテスト実施のために－	堀 田 亮ほか	…… 119
医療系大学における学生相談室に対する認識と援助要請に関する研究	佐 藤 純ほか	…… 125
ひきこもり学生のサポートにおけるキャンパスデイケア室の意義についての検討		
－2事例へのサポートを振り返って－	西 谷 崇ほか	…… 131
自殺念慮が持続する大学生の健康管理	田 中 生 雅ほか	…… 137
学生相談における短期集団精神療法の効果性－自己凝集感の獲得による主体性の増進－	岡 泰 央ほか	…… 143
新入生健診におけるメンタルヘルスチェック尺度の検討－UPI, K6, レジリエンス尺度の比較－	足 立 由 美ほか	…… 149
東北地方一大学における東日本大震災の心理的影響－学生定期健康診断時の4回の質問紙調査から－	早 坂 浩 志ほか	…… 155
大学における発達障がいの頻度の推定(1)－方法論の検討と予備調査結果－	苗 村 育 郎ほか	…… 161
大学における休・退学, 留年学生に関する調査結果と考察－平成24(2012)年度分の調査について－	布 施 泰 子ほか	…… 169
全国国立大学大学院学生の死亡の状況について－平成24年度調査から－	丸 谷 俊 之ほか	…… 175
全国国立大学大学院学生の休学・退学・留年の状況について－平成24年度調査から－	丸 谷 俊 之ほか	…… 181
大分大学学生・教職員の医薬品に関する基礎知識－保健管理センターによる啓発活動の必要性－	工 藤 欣 邦ほか	…… 187

報告・症例報告

米国大学保健管理協会年次集会2014に参加して－国際連携委員会からの報告－	山 本 眞由美ほか	…… 193
---------------------------------------	-----------	--------

平成26年度事業報告	
第52回（平成26年度）全国大学保健管理研究集会概要	199
平成26年度 地方部会事業報告	210
平成27年度事業計画	
第53回（平成27年度）全国大学保健管理研究集会ご案内	223
平成27年度 地方部会役職者および活動予定	224
理事・監事・評議員名簿	227
会員名簿	230
協会からのお知らせ	
会議報告, 会議予定	236
協会この1年	237
機関誌編集委員会からのお知らせ	239
CAMPUS HEALTH (2) 投稿規定	240
あとがき	243

コミュニケーションとは

公益社団法人全国大学保健管理協会理事
昭和大大学長補佐・保健管理センター所長・教授 米山 啓一郎

今回の CAMPUS HEALTH 52 (2) は発達障害を特集しています。各専門家が得意な分野を総説として解説しています。

私が思うに発達障害の分野は、長い間検討されてきた割に医療的にも医学的にも端緒についたばかりであり、いろいろな意見がぶつかり合う時期だと思っています。その中でも、社会的には教育・学習・行動学など種々の側面からのアプローチを行いつつあること、医学的には fMRI を使用した脳機能の研究や精神医学的診断や治療が大幅に進歩しつつあることが注目されます。本学の烏山病院にも発達障害医療研究所ができ、一般人の発達障害生活支援や診断・治療が行われています。加藤 進昌所長は、発達障害とは「病態的には生得的に備わっているはずのコミュニケーション能力を欠く状態で、障害の本質は、他者理解に基づく共感性の欠如にある」と述べています。

「コミュニケーション」と言いますが、なにも相対する人同士で行うだけがコミュニケーションという訳ではありません。

2001年正月明けのことですが、昭和大学保健管理センター宛に一通の手紙が届きました。何気なく差出人の名前を見ると前年に亡くなった保健管理センター前所長でしたのでびっくり仰天しました。慌てて封を開けると筑波科学博覧会のマークと共に「この手紙が届く2001年には保健管理センターが発展していることを願っています」と書かれていました。どういう事だったのかというと、1985年に筑波科学博覧会が開かれた際、その時書いた手紙が15年後の21世紀最初の元日である2001年1月1日に届く「ポストカプセル2001」というサービスだったのです。その時は死者からのコミュニケーションであり、励ましの言葉であると思ったものです。

さらにはミクロの世界に目を向けてみます。以前私は細胞間コミュニケーションを研究していました。肝細胞間には gap junction (ギャップ結合), tight junction (タイト結合), desmosome (デスモゾーム = 接着斑), adherens junction (接着結合) などの細胞間連絡装置があり、隣の細胞とのコミュニケーションを取り合っています。中でも gap junction は正常な状態では Ca イオンや c-AMP などの細胞間伝達物質を通過させていますが、一旦隣の細胞に障害がおけると防火扉のように junction を閉鎖し悪い情報をシャットアウトしてしまいます。このように小さな細胞間にもコミュニケーションがあり、人体の60兆もの細胞は細胞間であたかも話し合いをするように関連しあっていることを痛感させられました。

コミュニケーションとはただ単に言葉を交わすことだけではなく、相手の表情・眼の動き・沈黙・場の空気を読む、意思疎通をはかる、協調性を保つ、自己表現する、といった人間的・社会的要素があります。それに加えて細胞学的要素ともなると、定義そのものが複雑すぎて訳のわからないこととなります。「コミュニケーション」という言葉の定義が複雑である以上、「完璧なコミュニケーション能を持つ人間」は存在し得ません。コミュニケーションが得意でない人々の一部に発達障害を持つ人

がいると考えた方が良くはないでしょうか。そうする事により発達障害を抱える人たちへの共感や支援がやり易くなると思います。

大学保健においても発達障害者の支援が言われていますが、基礎的知識無くしては本当の意味の支援とならない可能性があります。ぜひとも特集号を一読されて専門家の意見を役に立ていただきたいと思います。

また、我々が属する、公益社団法人全国大学保健管理協会も役員や大学間のコミュニケーションを緊密にとりさらに発展していかなければならないと思っています。それには関係する皆さんが協力しあえる体制も必要だと考えています。皆さんの意見を聞き変革を恐れないように進むつもりですので、よろしく願いいたします。